

建設防災 ボランティアニュース 第 44 号

第16回定期総会の開催

平成 24 年度の定期総会が 6 月 20 日(水)午後 3 時から東京都道路整備保全公社大会議室で、会員 88 名(登録 152 名)の参加を得て開催されました。

中田理事の司会で始まり、まず沼尻会長から「昨年度は大きな水害が多発し、最近では東京直下型地震の発生確率が高いという発表もあり、協会活動の重要性が益々大きくなっている。

建設防災ボランティアはいついかなるときも防災活動に参加できるように努め、今年度も実践的な訓練に関係機関と協力してまいりたい。

また今年は協会発足15周年にあたり、継続会員への感謝状贈呈、記念誌の発行、記念品の配布を考えている。」との挨拶がありました。



沼尻会長の挨拶

続いて横溝建設局道路監、有留道路整備保全公社理事長、鈴木公園協会代表理事から、それぞれに日頃の活動へのお礼と今後とも協力しようという力強いエールをいただきました。

議事は柳川議長のもとに進められ、23年度の

事業報告(本間理事)、決算報告(丸岡理事)及び会計監査報告(堀内監事)について説明があり、いずれも拍手多数で承認されました。

続いて、協会活動の更なる充実を目指した24年度の事業計画案(小山副会長)及び予算案(丸岡理事)が提案され、質疑を経て拍手多数で承認されました。また新たに久保田、林、野村の3氏を新理事とする提案があり承認されました。

議事終了後、リーダーの指名と委嘱状、活動功労者・リーダー交代者・10年並びに15年継続会員への感謝状を贈呈。

新規会員4名(新規登録7名)の紹介、15周年記念誌及び記念品の紹介、新たに協会の事務を担当していただく公社の宮崎さん、藤枝さんの紹介などを行い、5時過ぎに終了しました。長時間のご議論ありがとうございました。



出席 15 年継続会員

総会終了後は、第二庁舎4階食堂に場所を移し、沼尻会長以下51名の協会員に加え横溝道路監にもご出席いただき、和やかかつ楽しい懇親会を開催しました。

理事 林 幹生

平成 24 年 7 月 15 日

総会に参加して

設立15周年を迎え、第16回となる平成24年度の定期総会に参加し、あらためて、建設防災ボランティア協会の発足の原点を確認する機会となりました。



横溝建設局道路監



有留道路整備保全公社理事長



鈴木公園協会代表理事

No.44(24—1)

昨年は1,000年に一度と言われる「東日本大震災」に見舞われ、そして今年に入り、「東京直下型地震が4年以内に起こる確率が70%」という発表があるなど、我々建設防災ボランティアに対する期待度は益々大きくなっていると感じます。

沼尻会長はじめ来賓の皆様のご挨拶にそのような気持ちを十分に感じました。来賓の横溝道路監は、建設局の木造密集地域の不燃化プロジェクトとして新たに特定道路の整備や東部低地の河川護岸の更なる耐震対策などの取り組み状況の説明があり、私たちOBの様々な知識、経験も大きな力になるなどと話していただきました。

また議事の質疑では、有事の時に必要となるであろうヘルメットの配布などについて真剣な討議が行われました。総会に参加の方々が、今の状況に危機感を持っているとともに、真剣に取り組む覚悟が感じられました。

このような中で、建設防災ボランティア協会のメンバー一人ひとりが、その時に何が出来るのか、何をすることが求められているのか。今一度、想定しておくことが重要と思います。

同時に各班の活動において、事務所との連携が非常に大切になります。イザと言う時のために、防災訓練などのほか、春秋の道路施設点検や事業説明会、意見交換会などの機会を通じて、各事務所との良好なコミュニケーションを築き上げておくことが必要と思います。

道路施設点検などは、現役の職員と同じ目的で行動することになるので、現役時代の仕事に少しだけ関われる機会でもあります。私たちOBの知識や経験が少しでも役立つことは気持ちの良いものです。

今年度も、色々な活動が予定されています。協会の各種行事に積極的に参加し、事務所との日頃のコミュニケーションを少しでも積上げていきたいと思っています。

なるべく東京に大地震が起こらないことを祈りつつ。

四建班 伊藤 政行

理事会及びリーダー会

7月4日(水)13時30分から、24年度の第4回理事会及び第1回リーダー合同会議が、会長はじめ理事、各事務所のリーダーが出席し、道路整備保全公社の会議室で開催されました。

担当の理事から、①平成24年度事業予定、②河川愛護月間行事支援、③東京都総合防災訓練などについての説明がありました。

今年度の防災訓練は、東京都と目黒区が合同で9月1日に林試の森公園と駒沢オリンピック公園で実施する計画になっており、詳しくは7月下旬に、関係建設事務所から担当リーダーに連絡が来るとのことでした。

その他として副会長より各事務所での意見交換会、現場調査、懇親会の実施状況などの確認があり、村尾都技監からのお話も報告されました。

会議終了後、今年度の防災訓練、施設点検、さらには局幹部との懇親会のことも含め、各リーダー同士の情報交換が盛んに行われておりました。

昨年3月に東日本大震災があったばかりであり、説明者も各リーダーも緊張感を持って取り組もうという熱気が感じられた会議でした。

理事 久保田 元久

南東建との交流会を2年ぶりに開催 ～技術の継承を目指して～

南多摩東部建設事務所との意見交換会が、さる3月23日(金)事務所会議室で開かれた。

これは、事務所職員と情報交換・経験と知識の交流を通じて建設技術を伝承するとの趣旨で、平成20年3月から毎年実施しているものである。昨年度は3月11日に発生した東日本大震災の影響で中止となったが、今回は2年ぶり、4回目の開催となったものである。

当会からは原田リーダー、杉本サブリーダーを始め植杉、本間、松田、矢内、丸岡の7名が、事務所側からは今村所長をはじめ各課管理職、係

長など32名が参加した。

意見交換会は、青木庶務課長の司会のもとに進められ、最初に当会の参加会員の自己紹介を原田リーダーから順に行い、その後、青木課長から今回の配布資料の1ページ目にあった当会の概要について説明があった。

そこに書かれた内容は、「建設防災ボランティア協会」の目的、会員の要件と登録方法、活動業務、会員数、22年度の事業活動、更には南東建班のメンバー12名の名前や役割までが分かりやすく端的にまとめられていた。

その説明を聞いていて、この資料は我々会員の誰かが今回のために作ったものだろうと思っていたが、後で所長に伺ったら、ボランティア協会のことや会員の名前などをよく知らない若い職員もいるので、この機会に知ってもらおうと思い、所側で作成したということであった。我々会員としては、所側の気配りに満ちた温かい気持ちを大変ありがたかった。



今村所長から挨拶

引き続いて、今村所長から挨拶があり、①今日の意見交換会は、議事次第にもあるように東日本大震災を踏まえ、防災についての勉強会である②ボランティア協会には毎年の道路施設点検、初動対応訓練での事務所参集や被害想定の実地点検などを通じて、我々事務所を支えていただいている③当事務所担当の会員は、それぞれ南東建に深い思いがあるメンバーであり、事務所と

平成 24 年 7 月 15 日

ボランティア会員との連携の良さでは、南東建はどこにも負けないと自負している ④そして、災害があったならばプロとして仕事をするのが建設局であり、我々は都民に対してその責任を果たさなくてはならない。今日の会はその覚悟と心得を再確認する場でもある との力強い言葉があった。



会場の様子

この意見交換会のテーマは、私たち会員のこれまでの職務経験を中心に設定してきたが、本年度は東日本大震災から 1 年を経過したことを機に、「危機管理」を基本テーマとし、個別テーマを①東日本大震災の災害について、②震災時の危機管理対応について、③意見交換という 3 部構成とした。

第一部の『東日本大震災の災害について』は、最初に災害の凄まじさを再起させる映像放映を、次に当会の原田さんが「気仙沼の災害レポート」と「釜石の災害復興」を、その後、杉本さんが「地盤の液状化」についての講演を行った。第二部の『震災時の危機管理対応について』は、「2011. 3.11 ディズニーの真実～7万人の命を救った危機管理対応～」というDVDの映像を観覧し、第三部の『意見交換』は、これらの報告や映像等を参考に危機管理をいかに進めるかというテーマで意見交換をした。

第一部の映像は、地震発災時の気仙沼市、釜石市、南三陸町の津波被害の様子を写したもので、この映像を見ていると3月11日の人知を超え

No.44(24—1)

る災害の凄まじさ、被害の大きさなどを再度想起させるものであった。

次に原田さんから、昨年 6 月に(社)首都道路協議会が行った東日本大震災の被災地視察に参加し、そのうちの気仙沼市の状況の報告があった。



原田会員の説明

被災から 3 月という未だ復旧があまり進んでいない時期の視察であったため、現地には津波によって破壊された家屋や構造物、内陸に打ち上げられた大型漁船がそのままの状態になっていたという。

市の担当職員の説明によると、今回の災害では津波による被害が多く報じられているが、地震そのものの規模も大きかった。このため、地盤が沈下したり、下水が逆流したりした事態まで生じ、水道や下水道の復旧が遅れたという。さらに、重油タンクが地震により倒壊し、気仙沼湾に流れ出た油が引火したため湾全体が火の海になり、その火が飛び火し市街地や山林まで火災になったとのことであった。

災害後の対応で大変だったのは、ライフラインの復旧、瓦礫の撤去・処理、遺体や行方不明者の捜索などであったという。

また、気仙沼市と原田さんが係長時代に在籍していた目黒区とは、姉妹都市として相互の「防災協定」を結んでいたため、災害直後から目黒区が職員の派遣や義援物資を送るなど素早い対応が

平成 24 年 7 月 15 日

なされ、気仙沼市は大変感謝しているとのことであった。

原田さんは、今回のような大地震が来ると地震による建物や構造物の倒壊、地盤の沈下や液状化、火災による建物や山林の延焼、それに津波による家屋等の壊滅的な被害などで複合的・巨大な災害になり、行政はこれまでの災害対策を根底から見直さなくてはならないと実感したという。

そして、被災地が本格的な復興計画に着手し、一日も早く従前のような豊かで活気のある「気仙沼」に戻ることを期待したいと結んだ。

続いて、本年 2 月に NPO 法人が行った「釜石市の復興まちづくりの現状と課題」という講演会に出席する機会を得たので、今後の防災対策の参考になるのではないかとということで、その報告も行った。

それによると、釜石市の災害復旧・復興のプロセスは、発災から時間の経過とともに対策が変化するという。発災直後の生命維持確保【対策として人命救助や危険な家屋や道路障害物の除去】から順次、生活確保【対策として避難所開設、ライフラインの応急復旧】、行方不明者搜索、生活再開【対策として仮設住宅の建設・ライフラインの復旧】へ、そして災害廃棄物の事業が始まる約 6 ケ月から 1 年後にかけて都市再建【対策として地域振興】へ向かうことになるという。

行政機能も初期の従来行政機能の回復・災害時の緊急的対応から順次、地域復興に向けた体制構築へと変化していかなくてはならないという。

そして、復興へのまちづくりでは、震災で学んだ教訓、復旧過程における課題、これまでの市の行政課題等を集約整理し、市民が参画するまちづくり懇談会を通して、目指すべき市の将来像、土地利用の方針、復興計画の課題などをまちづくり計画に反映していくことになる、というものであった。

次に杉本さんからは、地震発生 2 週間後の浦安市の地盤液状化の被害状況をカメラ片手に調査したことを踏まえ、現役時代から培った専門の

No.44(24—1)

知見を生かし、地盤液状化概論というべき「東日本大震災による千葉県浦安市の液状化被害調査」を報告した。



杉本会員の説明

報告では、最初に現地の住宅の沈下やライフラインの被害状況をスライドで紹介し、その後、震源地から大きく離れた地域でなぜこのように大きな被害が発生したのかを、浦安市の埋立の歴史を振り返りながら、地質柱状図の分析と液状化の関係や再液状化の可能性を解説した。

そして、液状化を防止するための地盤改良工法を液状化が起きる地盤条件ごとに紹介するとともに、地盤改良以外の液状化対策も紹介した。そして最後に、この被災した現場を目の当たりにし、長年に亘り地盤技術にかかわってきた技術者としては、これまでの技術がどこまで社会に貢献できたのか、これまでの技術に見直すべきところはないのかなどを反すうし、そして誰でもが使える安価な工法の開発を急ぐ必要があるのではないのかと詳しく説明した。

第 2 部は、年間 1,000 万人が集う東京ディズニーランドでの震災時の危機管理対応のドキュメント映像でした。これはある民間放送がテレビで放映したものの映像で、東日本大地震を「想定内」の出来事として対応し、約 1 万人のアルバイトを中心としたスタッフが 7 万人の来場者を安全にしかも安心感を与え、的確に対処した姿を紹介したものでした。

平成 24 年 7 月 15 日

それは、普段からいざという時のために、最悪を想定した対策を練り、準備をし、訓練を重ねていくことの重要性を改めて認識させるものでした。

今村所長からは、「建設局でも公園、動物園、水族館を所管しているので、来場している多くの都民への対応としてこの映像は大いに参考になるし、いざという時には上からの指示を待つだけではなく、普段の訓練を通じて得た経験をもとに、臨機応変な対応も必要になってくるのではないか」というコメントもあり、貴重な映像であった。

第 3 部は第 1 部と第 2 部を踏まえ、会員と事務所職員の意見交換が行なわれた。

「東日本大震災の被害は地震によるものなのか、それとも津波によるものなのか、分けて分析しているのか」、「浦安市の液状化では埋め立て時期により違いはあるのか」や「砂の粒形が大きければ地盤の安定度が高いのか」などの専門的な質問が出され、会員がそれぞれに答えた。

また、今村所長からは、建設局では今回の震災に際し、被災地で亡くなられた犠牲者の火葬が被災地では間に合わなかったため、都立瑞江葬儀所で仮設の建物を作りながら協力したことや、土木技術・人材育成支援センター(旧土木技術センター)では、都内の液状化想定図や地質柱状図を有しており、地域の開発や建物の建築にあたっては、これらの資料から地盤の状況を把握することが重要であることを事例に即して説明があった。

最後に、青木課長から今回の意見交換会実施に際し会員への感謝とともに、当協会に対し建設局及び南東建のため引き続き協力をお願いしたいとの挨拶があり、本年度の会を終了した。

今回の意見交換会は、多くの事例や意見等が出され、我々会員も防災知識やこれまでの経験を再検証する機会にもなった。今後は、これまで以上に事務所職員と一体となって災害時の対応にあたらなければいけないとの思いを共有したものになった。

終了後、場所を移し会員と事務所職員との懇

No.44(24—1)

親会が催され、各テーブルでは意見交換会の続きのような懇談が活発に行われた。

東京と都民を守る防災対策を強固に推進する現役とOBとの一体感を醸成する有意義なものとなった。

南東建班 丸岡 敏夫

協会からのお知らせ

1. 新規入会会員

上杉 俊和 (24/4/25、東部公園)

老沼 宏二 (24/4/25、南西建)

小柴 茂 (24/4/25、四 建)

鷺見 政明 (24/4/25、三 建)

中川 良雄 (24/4/25、三 建)

藤野 文隆 (24/5/23、一 建)

船山 吉久 (24/4/25、二 建)

山口 明 (24/5/23、本 部)

佐々木俊平 (24/5/23、南東建)

敬称略(入会年月日、参集事務所)

2. 総合防災訓練のお知らせ

平成 24 年度東京都・目黒区合同総合防災訓練が 9 月 1 日(土)森試の森公園、駒沢オリンピック公園他で実施されます、関係する二建班、東部公園班の会員の方宜しくお願いします。

3. 広報担当からのお願い

各事務所の河川愛護、道路施設点検、連絡会(懇談会)等の報告原稿を広報担当まで積極的にお送り下さい。

発行人:沼尻 執

発 行:東京都建設防災ボランティア協会

所在地:新宿区西新宿 2-7-1

小田急第一生命ビル 20F

公益財団法人 東京都道路整備保全公社内

編 集:加藤 基雄、中田 勝司、丸岡 敏夫